

親子で納得 ニュースな経済学



経済ジャーナリスト・内田裕子

会社に求められるエコカーの準備

ここ数年、絶好調だった自動車会社。アメリカ、中国、インド、ロシアなど世界中でたくさん自動車が売れていました。でも、去年の秋のアメリカ金融危機から、とつぜん売れなくなりました。先日発表したトヨタ自動車の決算は4300億円の赤字でした。去年は1兆7000億円ももうけていたのでびっくりしました。そんなに利益がでる会社は世界でも数社しかないのです。今年もアメリカのゼネラル・モーターズ（GM）という自動車会社を抜いて、トヨタが世界一になると期待されていました。台数に関しては予定通り世界一なのですが、会社が赤字では喜びもありません。

でも、どうして車は突然売れなくなったのでしょうか。自動車の値段は高いから、買うときはみんな

な自動車ローンという借金をします。でも、いま、ローンを組んでくれる金融機関がとても調子悪い。だから車がほしい人はいるのにローンが組めない。また、自分の会社が倒産したり、お給料が減ってしまったりした人にとって、借金は住宅ローンだけで精いっぱい。新しい車を買う余裕がなくなってしまったのです。そんなことで車は急に売れなくなり、トヨタも苦しんでいるのです。

アメリカの自動車会社はいま、倒産の危機にあります。でもアメリカの車は金融危機のずっと前から売れなくなっていました。理由は、ガソリンと電気で作るハイブリッド車などエコカーの開発の遅れです。アメリカの車はたくさんガソリンを使います。アメリカは石油会社が政治に大きな力を持っていたので、エコカーの開発は遅れてきました。でも、少し前、ガソリンの値段がすごく上がりました。あんなことが起きたら、みんなガソリン代がかからない車がほしくなりますよね。アメリカの車より、省エネで性能がよい日本の車が



アメリカの代表的な自動車会社の車も不況で売れなくなっています。写真は、フォードの販売店。二〇〇八年十月、アメリカ・デトロイトで

人気になりました。そこでもっとアメリカで車を売ろうと力を入れていたら、すごい木曜日がきてしまったのです。

たしかにいま、車は売れていません。でも世界を見わたせば、まだ車を必要としている人はたくさんいます。景気が良くなったときみんながほしがらるエコカーを、準備しておけるかどうか。自動車会社の生き残りは、そこにかかっています。

プロフィール 玉川大学芸術学部専攻卒業後、大和証券に入社。2000年に財部誠一事務所に移籍。製造現場の取材や経営者のインタビューなどの仕事をこなす。テレビ出演、執筆、講演活動を通じて経済の情報を伝えている。ウェブサイトは、<http://www.takarabe-hrj.co.jp/uchida/>